トレンド

IDC Japan

国内サーバ市場動向を発表

2013年の市場規模は、前年比1.1%増の4,608億円
x86サーバ、メインフレーム、ビジネスサーバがプラス成長に貢献
国内サーバ市場の出荷額でNECが富士通に初めて追い付き、両社首位に
国内x86サーバ市場の出荷台数で富士通がNECに初めて追い付き、両社首位に

IT専門調査会社のIDC Japan（以下、IDC）は、2013年通年の国内サーバ市場動向を発表した。これによると、2013年の国内サーバ市場規模は、前年から1.1％増加し、4,608億円。また、出荷台数は、前年から0.5％減少し、57万台だった。

2013年の国内サーバ市場は、x86サーバ、メインフレーム、ビジネスサーバ、スーパーコンピュータが前年から出荷額を増やした。一方、UNIXを主なOSとするIA64サーバとRISCサーバは、共に前年比で40％以上のマイナス成長となった。UNIXサーバ市場は、更新需要主体の市場となっており、新たなシステム需要を取り込めていないことが背景にあるようだ。IDC Japan サーバ リサーチマネージャーの林 一彦氏は「2013年の国内サーバ市場は、特にx86サーバが出荷額を増やし、市場全体に占める割合が前年から7.3ポイントアップの63.1％を占めた。x86サーバは、円安の影響による部材コストの上昇やサーバ統合を背景に、平均単価が前年から14.3％上昇している。2013年は、景気回復の兆しもあり、情報サービス関連だけでなく、金融、製造、官公庁関連の大口案件も目立った。今後も国内サーバ市場は、x86サーバが市場の動向を左右することになるだろう」と説明している。

ベンダー別出荷額では、富士通とNECの出荷額シェアが共に20.6％タイの首位。富士通は、x86サーバの出荷額で前年比2桁の成長を確保し、NECは、メインフレームで大型機の出荷が好調だったことが要因だ。NECが富士通に追い付き国内サーバ市場の出荷額で首位になるのは、IDCが2001年に調査を開始して以来、初めてのこと。同3位はIBMで、前年比でマイナス成長となり、前年の2位から一つ順位を落とした。x86サーバとビジネスサーバの出荷がプラス成長となったが、RISCサーバとメインフレームが前年から2桁のマイナス成長だった。4位はHP。x86サーバとビジネスサーバはプラス成長を確保したものの、IA64サーバが大幅なマイナス成長となった。5位は日立製作所。x86サーバは2桁のプラス成長を確保したが、RISCサーバとメインフレームが前年割れとなった。

また、x86サーバの出荷台数においても、NECと富士通が共に1位を獲得。これまで1位を堅持してきたNECに富士通が追いつき、国内x86サーバ市場で1位になるのはIDCが2001年に調査を開始して以来初めて。3位以下は、HP、デル、IBM、日立製作所の順で前年と同じ。

同時にIDC Japanは、2013年第4四半期（10～12月）の国内サーバ市場動向を発表した。これによると、2013年第4四半期のサーバ出荷額は1,147億円で、前年同期比で7.0％増加した。製品別では、x86サーバとビジネスサーバが前年同期比で2桁のプラス成長となった。一方で、IA64サーバ、RISCサーバ、メインフレームが前年同期比で2桁のマイナス成長となった。

ベンダー別では、NECが前期に続き首位を獲得。メインフレームとx86サーバ、IA64サーバが前年同期比でプラス成長だった。2位は、富士通で、x86サーバが好調。3位はIBMで、x86サーバとビジネスサーバがプラス成長だが、RISCサーバとメインフレームが2桁のマイナス成長だった。

●お問い合せ先●
IDC Japan㈱セールス
TEL：03-3556-4761
E-mail：jp-sales@idcjapan.co.jp
URL：http://www.idcjapan.co.jp/